

平成30年度 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	今年度の重点目標は、各部署の評価からおおむね達成できたと考えられるが、次年度への諸課題も残っている。生徒の授業評価、保護者の学校評価は肯定的回答が9割以上であった。	・中期目標(3)(4)に関わり、「社会性向上」「情報発信」「家庭との連携」「安心・安全」という観点の活動に一定の成果が見られた。次年度も継続・向上をめざしたい。 ・中期目標(2)(5)に関わって各教科から「主体性」「言語活動」「論理性」「課題解決」の観点に基づく授業実践が行われた。目標の明確化による実践の中からは成果とともに取り組むべき課題も指摘されている。 ・中期目標(1)に対しては約94％が評価Bであり、新入試制度への対応と生徒の進路保証という点について、努力はしているが改善の余地があると感じている部署が多い。当然、授業改善とも関連が強く、生徒・保護者の授業・進路に関する期待と意識は高い。次年度の大きな課題としては「授業力アップと充実」「学習時間の増加」があげられる。中期目標(1)達成のためのより具体的な方策と取り組みが求められる。
平成30年度 重点目標（平成30年度～34年度 中期目標）		
(1) 「大学入学共通テスト」に対応する丁寧な教科指導と進路体制の充実により、それぞれの生徒の進路実現を保証する。 (2) 学習活動・課外活動・部活動など多くの場面で、課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢を育成する。 (3) 広く地域や国際社会に目を向けさせ、校外でも積極的に活動することで、社会性やコミュニケーション能力を高めさせるとともに、地域の期待に応える「地域の中の学校」づくりを進める。 (4) 必要な学習環境の整備を行い、積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な(体罰やいじめなどのない)学校づくりを進める。 (5) 「言語活動」を充実させ、的確な言葉を用いて、論理的かつ自由に思考し表現しながら、異なる他者や多様な立場を理解できる多角的な視野と品格を育む。		

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目	自己評価	成果と課題・改善策(最終)
1 教務	(1) (2) (3) (4)	①授業や諸行事が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。 ・校内研修の充実を図れたか。	① ② ③ ④	B B B A	①各行事・通常業務の立案、実施、反省はほぼ計画通りであった。反省点については、次年度の計画立案の際に改善したい。 ・第1回地域公開授業6/11実施。(220名参加)第2回地域公開授業10/1実施(115名参加)体験入学7/28実施。(約640名参加)中学校から要望の多かった体験授業については、今年は総文祭の関係から実施できなかったが、次年度は実施の方向で考えたい。 ・webページの刷新とインフォメーション更新(随時実施)・学校ニュース更新(89件)の実施。連絡メール(教務関係)約40回配信、他部署においても多くのメール配信を実施し、保護者から好評であった。
		②各分掌や学年と密に連絡を取り合う。				②連絡不十分な場面もあり、改善に努めた。
		③今年度の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・55分授業や特曜日の課題を把握し、次年度の年間行事予定に反映できたか。			③職員研修会の実施(7/11)と行事に関するアンケートの実施。日課表の一部変更を協議し実施できた。年間行事予定については、集約された意見を基に検討中である。
		④安心して通える学校作りに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。			・教員相互の授業公開(6月・10月)の実施し、研究授業を組み入れながら、授業改善を図った。次年度は参加者数の増加の為に工夫をしたい。
2 進路指導	(1) (2)	①生徒が各自の能力・適性を的確に把握し、主体的に自らの在り方生き方を考えて進路を選択できるように、あらゆる教育活動とあわせて、計画的・組織的な指導を展開する。	・個人面談、学年集会、「進路の日」企画運営、「総合的な学習の時間」等を有効に活用して、生徒の進路意識を高め、進路ガイダンス機能の充実を図ることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	①	B	・諸事業はほぼ計画どおりに遂行することができた。 ・基本的学習習慣を身につけさせることを目標に、PDCAサイクルを意識させる指導を行っている。しかしながら、各学年とも家庭での学習時間が大きく減少しており、学習時間の確保が課題である。学習とクラブ活動との両立させることの厳しさを乗り越えられるような、強固な進路目標作りが課題と考えている。 ・「進路の日」等の各学年の企画に加えて、希望者参加による夏季大学模擬授業を企画して生徒の知的好奇心の涵養や進路意識の高揚を図る機会としたが、受講希望者が少なかった。 ・今年度から「総合的な学習の時間」を企画・運営する業務が加わり、また1学年においてはClassiやGTEC受験といった新たな事案への対応にも迫られ、進路学習指導部担当業務が肥大化している。部内でも業務分担の見直しを試みているが、課題がある。
		②体系的な「総合的な学習の時間」の企画・運営を通じて、キャリア教育の取り組みをより充実させる。特に今年度は初年度にあたるため、記録を詳細に残し、次年度の計画立案に資するよう配慮する。	・各学年と連携し、3年間を見通した「総合的な学習の時間」の計画立案と運営に着手できたか。			・初年度は「とにかく時間割上に位置づけて記録を残す」ことが主眼であった。学年を問わず「進路学習」に大半の時間を割いているのが現状で、3年間を見通した計画の立案・運営および運営のための校内態勢整備が今後の課題である。現在、校務分掌委員会において担当部署の新設について検討がなされているが、この議論は「高校改革一歩に挑戦する学び」における「3つの方針」をどうするかという大きなテーマとも密接に関わるものであるため、全校的な議論をふまえて考える必要がある。 ・入学当初のオリエンテーションをはじめ、進路意識や学習意欲を高めるため、様々な分野の講師から貴重な講義を頂き、生徒はその都度刺激を受けている。今後は授業をはじめとする諸活動の中で身につけた知識や能力が社会でどのように活かされるのか、社会と自己とのつながりを生徒が意識できる学習活動を取り入れて行きたい。

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項 目	自己 評価	成果と課題・改善策(最終)
2 進 路 指 導	(1)	③ 生徒の進路選択に関わる情報や模擬試験データを職員間で共有し、教科会等に対して指導に関する助言・協力を求める。同時に「高大接続改革」に関する情報収集に努め、職員間で情報共有を図る。	・定点観測模試結果の傾向を分析し、職員会へ報告したか。また、教科会にデータ分析を依頼し、教科指導へのフィードバックを図ることができたか。 ・各種研究会への参加や大学訪問等を通じて、高大接続改革に関する情報収集を行ったか。	③	B	・定点観測で実施しているスタディサポートや模擬試験の結果については分析を行い、職員会で報告し、教科指導へのフィードバックを依頼している。各教科においては課題克服に向けた指導方法の改善を引き続きお願いしたい。英語資格・検定試験(1年次GTEC)についても同様である。 ・高大接続改革に関しては、各種研究会への参加や大学関係者との懇談を通じて情報収集に努めているが、まだ明らかにされていないことが多い。「大学入試英語成績提供システム」における「共通ID」発行については、現在の大学入試センター試験と同様に、在籍校で申込書を取りまとめて一括申込を行うと県教委を経由して大学入試センターより通知があった。また、高校3年次に2回受検することになる英語資格・検定試験の受検時期については2020年度年間行事予定立案の際に配慮が必要になると考えられる。
		④ 進路指導に活用できる情報・資料を収集し、生徒・保護者及び職員に発信する。	・各学年の進路通信(学年通信)、「進路室だより」を発行できたか。			・発行の頻度には差はあるが、時機を捉えて情報発信に努めている。1学年においてはClassiを利用して保護者へも直接配信している。
		⑤ 進路学習指導部の業務推進にあたっては、関連分掌との連携を図る。とりわけ、1学年で導入するClassiの活用にあたってはその機能が多岐に渡るため、教育情報化推進の潮流に鑑み、学校全体でその活用方法を段階的に検討していく。	・教務部、情報処理部、1学年会と連携して業務にあてられたか。			・1学年においてClassiの持つ機能を研究しながら、各種活動の記録や振り返り、連絡の伝達、生徒情報の把握、保護者との情報共有等について活用を推進している。 ・現状ではClassiの機能は学習指導に関わることが中心であるため、今年度は進路学習指導部がClassi活用の推進役を担ってきた。Classiを新学年でも採用することになれば、全校生徒の3分の2がClassiを活用することになる。また、その機能は多岐に渡っているため、別の部署が担当することが望ましいと考え、校務分掌委員会に検討を依頼している。
3 生 徒 指 導	(4)	① 生徒に基本的な生活習慣を確立させ、生徒とのコミュニケーションや家庭との連携を大切に、信頼関係を築く。 ② 職員が些細なことでも情報共有できるようアンテナを高くして、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	・職員全員で、立ち番指導、あいさつ運動、校内巡視を行い、各学年会と緊密に情報を共有し指導できたか。 ・年2回実施する匿名性のアンケートで、生徒指導部に寄せられた情報に、関係機関と連携し、的確に対応できたか。	①	B	① 雨天中止を除いては計画通り立ち番指導を行い、校風委員会と協力して朝の挨拶運動も実行できた。職員の巡視は徹底されているとは言えなかったが、ストープを使用する時期以降、巡視がされており、特に部室の施錠が年度の前半と比較して良くなった。各学年から挙がってくる情報は共有できている。
						② 年2回実施するアンケートを実施した。保護者懇談会の話題の1つとして利用できた。現時点では、いじめ・体罰などの情報は寄せられていない。また、頭髪等の指導において、担任の先生の負担を考慮し、指導の従わないような生徒を部会で指導した。
4 生 徒 会	(2) (3) (4) (5)	① 他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。	①	A	① 双蝶祭などの行事や日頃の生徒会の関わる活動において、生徒中心の主体的・実践的な取り組みを深めることができた。
		② 集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携をはかる。	・保護者・地域との積極的な連携がはかれたか。			② 双蝶祭や福祉施設訪問等のボランティア活動において、保護者・地域と連携を図ったが、更に関わりを深められるよう、今後も方法を模索したい。
		③ 健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。			③ 双蝶祭などの行事や部活動において活発な活動を推進することができた。
		④ 相互に尊重し、友情を深めるとともに、規律を遵守し、共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。			④ 地域や未知なる分野への興味・関心を持てるようなきっかけづくりをすることで、より広い視野を持ち、他者を尊重する姿勢を今以上に養えるよう工夫を図りたい。
5 清 美	(2) (4)	① 清美委員会と協力し、ゴミの分別・ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ゴミの分別徹底により、ゴミの削減ができたか。	①	A	① 資源ゴミの分別徹底により、昨年度より可燃ゴミの削減を行うことができた。次年度も積極的に燃起を行い、生徒の主体性を育てることに力を入れたい。
		② 職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔気持ちのよい学習環境を整えられるよう清掃計画を行う。	・大掃除・ワックスがけなどの清掃計画は適であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われたか。			② 清掃計画は年間を通して計画通り遂行できた。校舎外清掃に加え、清掃点検活動を定期的な活動として定着させ、全校の清掃意識を引き続き高めていきたい。
6 図 書 視 聴 覚	(2)	① 生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材等を備えることができたか。	①	B	図書館に授業用の図書をそろえたり、視聴覚機器を購入していただいたりすることで、生徒の主体的、意欲的な学びを支援することができた。
7 保 健 教 育 相 談	(2) (4)	① 生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握し、情報を共有し、チーム支援の体制をとることができたか。	①	A	① 全生徒の定期健康診断、1学年生徒の普通救命講習・性教育講話・薬物乱用防止講話、校内環境の衛生検査など、生徒の心身の健康維持のために実施することができた。また、学校生活への適応に困難を抱えている生徒について、職員間で情報を共有し、ケース会議を開くなど、チーム支援の体制をとることができた。
		② 成長過程での様々な問題を抱えている生徒を、早期に把握し、体や心の悩みに寄り添い、家庭や外部機関とも連携していく。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。			② 支援を要する生徒について、職員全体で情報を共有し、必要に応じて保護者も含め、カウンセリングや外部の支援機関につなげることができた。また、教室に入れない生徒の居場所として相談室を機能させることができた。しかし、これらの生徒が結果的に学校生活を順調に送れるようになるケースは少なく、今後の課題である。
8 渉 外	(3) (4)	① 学校と保護者・同窓会との連絡を取り連携を図る。「すべては生徒のために」をスローガンとするPTA活動を補佐する。	・PTA事業の計画・運営は適切に行えたか。	①	B	① PTA関係事業は予定通り企画・運営等、行うことができた。PTA総会・地区懇談会の参加者を増やす工夫が必要である。
		② 会員が参加しやすい組織作りを心がける。地区PTAを定着させ、出席率の向上を目指す。	・地区PTA懇談会の計画・運営は適切であったか。また、保護者の意見を吸い上げ、反映させることができたか。			② 地区PTAについては、1地区実施されなかった。来年度は実施できるよう求める。出された意見は集約し、要望等を職員に提示した。それぞれの部署で活用していただきたい。地区の合併については、引き続き地区の意見を聞きながら進めていく。

学年	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己 評価	成果と課題・改善策(最終)
1 学年	(1)	①生徒が安心して学校生活を送り、良い人間関係を築き安定した精神状態で生活できるようにする。 ②入試改革に向け新たな取り組みを積極的に導入していく。	・個別面談を細目におこない生徒の状態を把握する。 ・総合の時間の有効活用と情報の発信・蓄積ができたか。	① B	①方向転換の生徒や不登校の生徒については中高連総会での情報交換の中で人間関係についてもっと詳細な情報を確認したい。本校への進学理由が曖昧であったケースが見られた。②総合の時間の長期的な計画が思うようにいかず、進路に重点を置いた内容に偏ってしまった。次年度は新部署において学校全体の在り方を検討していただき有効活用していきたい
				② B	
2 学年	(2) (5)	①生徒が安心して楽しい学校生活がおくれるようにクラス・学校内で良好な人間関係を作れるようにする。 ②生徒の進路に関わる情報を逐一、家庭・生徒に提供し、個々の生徒が、自分に適した進路の方向性を見いだせるように指導する。	・進路・友人関係など学校生活での様子を聞き取る個人面談が実施できたか。 ・進路通信など定期的に発行できたか。 ・「総合的学習の時間」で、生徒が自発的に考え調べていくキャリア教育が実施できたか。	① B	①個人面談を数回実施して、生徒の情報を集め、学年会で情報を共有することができた。クラスの枠を超えて人間関係が良好に作れるようになったことで、不登校傾向だった生徒が学校生活を普通に送れるようになってきている。 ②自分たちで企業側に連絡をして、企業訪問を実現できたことは、来年度の進路実現に向けて大きな自信につながっていくと思われる。
				② A	
3 学年	(2) (5)	①生徒が安心して安全に生活できるよう、環境整備に努め、個々の生徒に丁寧に対応する。 ②それぞれの生徒の希望を把握し、生徒、家庭に情報を提供しながら、進路実現に向けて支援する。	・学習環境整備のため、清掃等の指導をしっかりと行ったか。 ・生徒が安心して学校生活を送れるように、生徒の悩みや進路希望等の相談に応じる個人面談を実施したか。 ・生徒、保護者と情報を共有するために、定期的に学年通信を発行したか。 ・「総合的な学習の時間」では、論理的に物事を考え、意見を交換したり、まとめを文章に書く活動が行えたか。 ・進路に向けて、学習の動機付けとなるような学習合宿、実力アップのための長期休業中及び平日の補習を行ったか。	① A	①清掃等の指導により、特に教室環境整備をしっかりと行うことができた。また、個人面談を適時に行い、落着いて生活できるように支援することができた。 ②進路実現に向けて、学年通信や美須々メールで情報を共有し、個別面談等で生徒や保護者との意思疎通を図り丁寧な対応ができた。平日補習や特編授業の展開など、進路指導部との連携を密にして進めてきて一定の成果はあったと思うが、センター試験に向かう特編授業において、AO/推薦合格者の多くと一般受験に臨む生徒たちの取り組みの温度差は大きく、雰囲気を持するという意味でも課題が残った。
				② B	
教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己 評価	成果と課題・改善策(最終)
国語	(1) (5)	①論理的思考力を高めるとともに、自らの考えを的確に表現する力を育てる。 ②教員と生徒、また生徒同士が活発にコミュニケーションできる場面を増やし、生徒自らが主体的に問題をとらえ、その解決策をわがこととして考える姿勢を作る。	・目標達成に資する適切な教材を設定することができたか。 ・授業に関わる情報交換をしつつ、教員同士が互いの授業を参観するなどして、授業力向上を図れたか。 ・定期考査に論述問題を取り入れることによって、論述力養成の効果が表れたか。 ・漢字や古文単語などの小テストを通じて、語彙力の定着を図ることができたか。 ・単元のまとめ等で、話し合いや対話を通じて各人の考えを発表することができたか。 ・「辞書作り」「助動詞かるた競技」「古典作品群読」など、生徒が能動的に授業に参加する場面を増やすことができたか。 ・作文、小論文、レポート作成等を定期的に取り入れ、各自の思考を書いてまとめる力の向上が図れたか。	① B	①教員同士の授業互見が不十分である。授業公開週間も十分活用できたとは言えない。主体的・対話的で深い学びを実践するためにも、外部研修会に参加したり、校内研修を活性化したりして、授業内容の改善に努める。 定期考査の論述問題出題はほぼ定着しているが、論述力向上には個人差がある。 小テストは定期的に実施し、語彙力向上を図っている。外部団体主催の語彙力検定でも一定の成果を上げている。取り組みは継続する。 ②生徒の能動的、参加型の授業を定期的 to 実施しているとは言えない。改善を図る。 1学年が小論文指導の一環として、講演会つきの模擬試験を実施した。内容と体裁を整えること以上に、発想力・着眼点の涵養をいかに図るかが課題である。即効性のある手立てはないので、機会を捉えて対話的な導き続ける。
				② B	
地歴公民	(3) (5)	①現代社会、政治経済など公民の授業で、主権者教育を通して広く地域や社会に目を向けさせる。 ②世界と日本の歴史・地理を学ぶ中で、他文化を理解し尊重していく姿勢を身につけさせる。	・学年と連携して、外部団体(選管)の協力を得ながら模擬投票など実体験ができたか。 ・定期考査などをとおして知識の定着と理解が図れたか	① B	①現代社会では、最近のニュースに興味を持ってもらえるように、時事問題を定期テストに取り入れ生徒の興味関心を高めることができた。身近な地方選挙が来年度の4月に実施される機会を捉えて、1・2年生への主権者教育を充実させていく必要性を感じる。 ②小テスト・重要用語の確認プリントなどを配布し、解答することで知識の定着化が図れてきた。
				② B	
数学	(1) (2) (5)	①教科の基本的学力の定着と、応用力の充実を目指す。 ②論理的な思考とともに、「言語」による表現・伝達ができる能力の育成を目指す。	・論理的な思考の手順を、解説や板書で的確に解説が行えたか。 ・提出課題、考査等で生徒自らの論理的思考を明確に記述できるか。	① B	・研究努力を重ね目標に近づくことはできた。しかし、未だ完成形には至っていない。引き続き来年度の目標とした。 ・考査では、従来以上に記述による思考過程の表現が必要となる問題を出題するなど、具体的な指導、取り組みが実施できた。 ・今後も指導法を研究していきたい。
				② B	
理科	(1) (2)	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。 ②観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 ③自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	・自然の事物・現象についての理解を深められたかどうか。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたかどうか。 ・観察、実験などを行い、科学的に探求する力が身についたかどうか。 ・自然の事物・現象に主体的に関わることであったかどうか。 ・科学的に探究しようとする態度が身についたかどうか。	① B	・生徒は学習を通して、自然の事物・現象への理解を深めることができた。 ・生徒は実験を通して、現象を理解することができた。また、基本操作を身につけることができた。教員は、今後も継続して安全指導を第一に連携して取り組んでいきたい。 ・生徒は、実験結果などから考察する力が身についた。課題としては、生徒が実験室で行った実験と自然の事物・現象とのつながりを意識することがまだまだ不十分であると思われる。教員側の発問を通じて、生徒が実験を行い探究する力を身につけられるよう工夫していきたい。 ・生徒は学習を通して、主体的に自然の事物・現象について関わるすることができた。特に、1年の生物基礎では「長野県の問題」をテーマにグループワークを行い、情報の収集・整理、発表を行った。実験による検証や実験データの分析を行うことで、科学的に探究する態度の育成がさらに見込まれると思われる。
				② B	
				③ B	
外国語	(1) (5)	① 4技能を高める授業展開 ②生徒が積極的・能動的な活動を通して、英語コミュニケーション能力を高める	・習得した単語や文法事項を使用しての発信能力を向上出来たか	① B	①授業で学んだ語彙や文法事項を使っ ての発信能力の向上は、時間の制約がある中、一定の成果が見られた。 ②生徒の言語活動には、かなりの時間をかけた。授業を円滑に行うために、予習プリントの準備等の更な工夫が必要であると思われる。
				② B	

教科	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目	自己 評価	成果と課題・改善策(最終)
芸術	(2)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を定め、意欲的に自己表現をする姿勢を育成する。	・はじめに単元や各時間の目標(テーマ)を生徒に伝えたか ・終わりに次の単元や時間について生徒に伝えたか ・生徒が意欲的にになれる教材の設定ができたか ・意欲的に取り組めない生徒への支援ができたか	①	B	・授業の始めと終わりに、その授業の目標を伝えることにより、授業に対し意欲的になりつつある。・教材の選定研究は行っているが、もう少し生徒の反応をみて、変えていく必要がある。 ・授業中に寝ている生徒は声かけを行い、減少している。
保健 体育	(2) (3)	①知識を深め、技能・体力を向上させることで、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツにつながる資質や能力を身につける。 ②健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、明るく豊かなで活力のある生活を営む態度を育てる。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させ、集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、楽しさを意識させることが出来たか、また安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	①	B	時間やルールを守り、主体的に活動できる生徒が増えている。一部の生徒には引き続きの指導が必要である。安全面への配慮はできているが、施設の改善が必要な所がある。生涯にわたって運動に親しめるような資質を養いたい。
				②	B	新聞記事等を利用して、身近な最新の情報を提供することができた。更に、パワーポイント、動画、グループワーク等を効果的に活用したい。
家庭	(2) (5)	①多様化する家族・家庭など現代社会の現状を知り、自分の生活と関連づけて考える態度養う。自分の生活を振り返らせ自らの課題を発見し改善していくための考える力をつける	・身の回りの出来事に関連するニュースなどに興味を持たせ社会の現状を学ばせきっかけを作れたか ・実習を通して基礎的技術を習得させ、衣食などの生活課題に気づかせることができたか ・意見交換の機会を作れたか	①	B	・成人年齢、持続可能な開発目標など新聞記事の活用も行って生活課題に気づくためのきっかけ作りをしてきた。自分の生活と関連づけ暮らしに興味を持てるようにしたい。 ・実習を通して意見交流や計画実習などに取り組むことができた。基礎的技術の習得に努めてきたが、生活体験に個人差が大きく技術の習得も差が大きい。
情報	(5)	①パワーポイントのスライド作りでは、言葉のものを十分に意識し、的確に、有効に使いこなせるにする。	・視聴者への言葉のインパクトがあるかどうか ・的確なフォントとサイズ、文言を選んでいる ・トーンマナーは守られているかどうか	①	B	進路研修旅行を題材にパワーポイントを利用したが、年度当初から計画的に進めた方がより充実したものになると思う。